

4. 図書館の取り組み

一、特色ある蔵書構築事業

平成 16(2004)年から 5 年計画で、北東北にゆかりのある人物関係資料及び食文化関係資料の収集を行い、5 年間で約 850 点総額 360 万円相当の資料を受け入れた。

平成 16(2004)年、新図書館建設を契機に、新規事業として特色ある蔵書の構築を図ることが図書館委員会において決定され、教授会に報告の上、本学の理念に合致していること、研究者や将来的な発展が見込まれること等について協議した。具体的には、図書館委員会の下に作業部会を設置、図書館委員の他に学内教員を委員に選出・委託し作業を進めることとなった。

人物として、初年度は新渡戸稲造、2 年度鈴木彦次郎、3 年度金田一京助を中心に収集を進め、4 年目からは三人物について並行して収集を行っている。

あわせて、岩手の食文化関係資料特にパンフレット類を中心とした収集を進めている。

5 年間の事業では、上述したように資料収集においても大きな成果があったが、この他にも各分野において次のような成果を上げている。

- (1) 新渡戸稲造 平成 21(2009)年 本学所蔵新渡戸関係資料目録の作成
- (2) 鈴木彦次郎 平成 17(2005)年 鈴木彦次郎書簡の電子化
平成 20(2008)年 本学所蔵鈴木彦次郎関係資料目録作成
研究論文発表

平成 21 (2009) 年度からはこの成果を活かし事業の第 2 期を計画、資料を収集する一方、資料の活用化について検討を進める。

二、図書館主催講座及び講演会の開催

(1) 事業の趣旨

平成 17 年度の移転から 3 年を経過し、図書館では大学及び短期大学部の建学の精神または教育目標に基づき事業を策定することとした。

建学の精神からは、「対話」を通して「言葉と知、豊かな心を培う」ことが具体的な行動原理として導き出されており、「対話」の対象には教職員・学生等の他に大学をとりまく地域社会も含まれている。また、大学の教育目標のひとつとして「東北の地域に根ざしながら、学術の中心として個性を持った魅力ある大学をめざす」ことを掲げている。

上記に基づき、図書館では、近隣の市町村特に地元滝沢村の地域住民が図書館並びに大学への理解を深める機会とするため、大学の他部門（比較文化研究センター開講講座、大学公開講座）とは異なる視点から一般社会人対象講座を企画した。

同様に、平成 20 (2008) 年度に講座テーマの趣旨に沿った講演会を企画した。

(2) 内容

本事業は、講座と講演会からなり、統一テーマに「子どもと本の幸せな出会い」を掲げ、子どもが始めて出会う物語・絵本等をテーマにその魅力と子どものかかわりについて様々な視点から探った。

講座は本学図書館を会場として、大学・短大教員に協力を依頼、絵本の読み聞かせ

等の実演を外部講師及び図書館職員が担当することで理論と実践をあわせた内容となった。講師による読み聞かせ、ストーリーテリング等の実演も行った。(3回)

また、会場を盛岡市に移した講演会では、各回とも英米児童文学翻訳家を招き、子どもと読書についてその豊かな知識・経験から培われた内容で好評であった。(2回)

(ア) 講座 会場：盛岡大学図書館

第1回講座 9月20日(土)

講師 短期大学部 松里雪子教授

演題 「かがく絵本の魅力～ふしぎを探検～」

(絵本理論等を中心とした講話)

第2回講座 10月4日(土)

講師 からまつ文庫(滝沢村) 沼田純子氏

演題 「子どもたちと楽しむお話

～絵本・わらべうた・ストーリーテリングの会～

(地元滝沢村で子どもと本にかかわっている沼田氏の実演と体験に基づいた講話)

第3回講座 10月18日(土)

講師 大学 菊池誠子准教授

演題 「昔話とファンタジー～シュタイナー幼稚園における実践から」

(シュタイナー教育幼稚園における昔話の意味と実践について楽器ライアーの演奏を交えた講話)

(イ) 講演会

第1回 平成20年12月14日(日) 午後2時～4時

講師 法政大学教授 金原瑞人(翻訳家・児童文学研究家)

演題 「12歳からの読書？」

会場 エスポワールいわて(盛岡市)

(YA(ヤングアダルト)世代の読書を中心に日本におけるヤングアダルト読者向けの出版状況を1970年代から年代順に紹介、YA作品の魅力を語った)

第2回 平成21年2月1日(日) 午後2時～4時

講師 青山学院女子短大教授 清水眞砂子(翻訳家、児童文学評論家)

演題 「子どもの本のもつ力」

会場 アイーナ(盛岡市)

(現在の幼児のごっこ遊びや大学で接する学生が自分を主張できない様子などを紹介、絵本や図書に込められたメッセージを読み解くなど、子どもの本のみにとどまらない多岐にわたる内容で、幅広い年代の共感を得た)

(3) 受講状況

(ア) 講座

各講座定員50名のところ、3回ののべ受講者数は98名であった。このうち本学学生22名、一般76名となっている。3回連続受講者が多く熱意が感じら

れた。

(イ) 講演会

各講演会とも定員 150 名とした。のべ聴講者数は 280 名。1、2 回共聴講した数は 64 名。学生 43 名、一般 237 名と、学生の参加は 15%程度であった。

アンケート結果からみた受講者年齢は各年代にわたっており、周辺の市町村特に盛岡市からの受講生が多かった。

講演会では、人気作品の翻訳者という講師の知名度もあり、他県からの申込みもあった。アンケート回収率は参加者の約 75%にのぼり、好意的な感想が多く寄せられた。

(4) まとめ

本学には、大学に児童教育学科、短大に幼児教育科と「子ども」に関わる学科があることから、共通のキーワードとして「子ども」を取り上げた。このキーワードから「教育」ではなく「児童書（児童文学）」としたのは、これまで大学の公開講座等で取り上げられなかった分野であることを考慮し、一般市民対象として「子どもと読書」が受け入れやすいテーマであると判断したものである。

講座については、大学・短大から教員の協力が得られたことで、内容が豊かになり、連続講座として整ったものとなった。

講演会は、それぞれの講師への関心が高く熱心に聴講する様子がみられた。しかし、総じてテーマに対する受講生・聴講者の意識も高く、その内容を理解した上で申し込む傾向にあるとの印象を受けた。

アンケートからは、盛岡大学または盛岡大学図書館がこのようなテーマで講座・講演会を企画したことに対する好意的な感想や、継続的な企画を望む声が多く寄せられた。大学の理念を体現し、地域に根ざした図書館をめざし、その第一歩として企画した事業であったが、概ね好評の内に終了したことは一定の成果を収めたといえる。今後の図書館サービス・運営に役立てていきたい。